

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西通り)

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	令和元年10月2日	開設年月日	平成18年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

相手の立場に立ち、本人の思い・希望に添ったケアを心がけています。尊厳を大切に自立支援を心掛け、待つ姿勢を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社福祉工房		
所在地	仙台市青葉区国見1-16-27-2F		
訪問調査日	令和1年10月16日	評価結果決定日	令和2年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方々との連携は積極的に行われ、運営推進会議には地区長始め地域代表の方々への参加や、隔月に開催するオレンジカフェには定期的に地区の方々への参加、夏祭りにも地区の方が多数参加するなど、地域に溶け込みつつある事業所である。又、事業所の畑での作業に利用者も参加するなど、地域の方々との交流や畑仕事などを通して利用者が社会への参加意識が持てるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果はGHあすなる南陽 東通り

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所に掲示し、利用者目線に合わせ聞き取りや職員間での話し合いを行い実践できる様努力している。	「私たちは自分らしさを大切に、いつも笑顔のある生活がしたい」という理念を事務所に掲示して、日々この理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや市のイベントには積極的に参加している。オレンジカフェや夏祭りには多数地域の方に参加して頂き利用者との交流が出来る。	地域の夏祭り(清水公園)に参加したり、オレンジカフェを奇数月に開催し、地域のグループ等の参加(12~13名)もあり、この方たち等と地域の情報の話し合いを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において事業所で起きている実際の状況を報告させて頂きました。(事例検討会の資料を用い報告)又認知症予防の取り組みとして週1回地域の方々に声を掛けミュージックケアを開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度運営推進会議メンバーとして新たに看護師退職された方おられ医療的なアドバイスを受け役立っている。	2か月に1回の開催で行政、民生委員(2名)、地域の住民、看護師、家族の参加で事業所の報告と課題をテーマに意見を聞き、話し合いをしている。事例(身体拘束)を基に認知症の理解をして頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例や生活保護関連の相談・身元引受人の状況等の相談をしている。	運営委員会に毎回参加しているので、相談し易い関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者にあつた見守り介助を行い、安易に拘束をしない様に職員間でその都度検討会を実施している。コール対応が出来ないなどで、やむ負えずセンサーを設置しなければならない時には同意書を頂きカンファレンスにて毎回外せるか検討している。	身体拘束しないケアを内部研修で事例を基に行っている。センサーを利用する時も家族より同意書を頂き、カンファレンスの時に経過を報告して、外せるための検討等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にあってはいけない事とし、内外研修・ミーティング等で研修を行っている。相手の受け入れ方にもより不満や不信感を抱いている利用者に関しては個別カンファレンス時に検討会を実施状況の把握や対応の改善を図っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用している利用者2名居り、後見人と話をさせて頂く機会が多くあります。今後必要と考えている方について家族と話し合いを持つ予定にしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際説明はしているが、家族が納得いく説明が出来ているか不安な部分はある。利用者の状態や家族の思いを汲みその都度ゆっくり時間をとり説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会等で意見や要望を聞いている。又面会の際時間を取り家族と個別に要望・意見を聞く機会を作っている。	面会時に時間を取って意見や要望を聞いている。また、家族会議、運営推進会議を通しての意見等を聞いている。以前はアンケート調査を行っていたが、現在は行っていない。アンケート等を通して家族の意見を聞く方法を検討する事		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の介護の振り返りを実施記入して貰い、日頃のストレスや意見・提案を聞ける機会を儲けその後面談を実施している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情を考慮し勤務に反映している。月一回の会議やその都度代表には報告しているが、給与水準・条件の整備まではいっていない。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には積極的に参加出来ている。専門職についての更新研修等配慮されている。	年間を通して研修等が実施されている。今年はミュージック、グループホーム協議会の研修等に参加予定である。新人研修を計画的に実施して、ケアの基本を習得する事が期待される。	支援の質の向上のため、更に職員に対する研修を実施していくことが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協の会議での意見交換会・交換実習参加・GH協主催の研修・交流会に参加出来ている。その中で知り得た情報等は事業所に伝達研修で共有している。	グループホーム協議会の会議の場所として事業所を開放している。交換実習の報告会の研修後に交流会等が計画され、同業者と交流する機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や面談でご本人の心身の状態や思いを把握し、入所開始の時点で不安要因の軽減に努めている。又、入所してからも信頼関係を築ける様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前になるべく多くの情報得ながら、事前訪問(面会)や見学の際に家族の思いや要望等を踏まえ、今後の方向性を一緒に考え信頼関係を得られる様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としているニーズを把握し、今までの生活習慣が継続できる様多職種と連携を図り、見極めご本人の必要に応じてサービスが利用できる様支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴や仕事・習慣等を大事に役割を果たせるよう関わりながら見守っている。出来る事出来なくなってきた事の情報等職員間で共有しながら関係性を保っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も協力者の一員として通院・外出宿泊等無理ない範囲で行って頂いている。面会や電話・近況などにより状況を報告させて頂いたり、イベントの際は家族の参加も募り、家族との時間を過ごせるよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に来所頂ける様解放しています。現在もお友達が定期的に訪れ話しやすい環境を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士が会話を楽しめる様食席を工夫したり、職員が思うように言葉が出ない方の代弁をしながら盛り上げたり、孤立せず関わりが持てるよう努めているが、利用者のこだわりの部分で孤立傾向にある方が居り、職員が主に関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所の際においても見舞いや面会に行ったり、今後の不安や他施設の利用相談等受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や言動を職員間で情報共有し思いを汲みとれる様努めている。又、家族の意向や要望も配慮しながら本人に添える様努めている。	日常の会話をもとに利用者の情報を職員が共有している。アセスメントは事業所独自の用紙を使用して、利用者の状況を共有しているであるが、思いや意向を具体的に共有していくことが期待される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報得たり、日々の会話から得た情報をご本人から聞き取り職員間で共有している。又以前利用していたサービス事業所からも情報を得る事も有ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については申し送りや記録の確認・職員間の周知の徹底をし、個々の特技や趣味を通し力が発揮できる状態を把握し、日々の過ごしに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて個々の課題について意見交換をし、実施事項について職員間で共有している。またモニタリング月の方については継続か変更か検討している。新たな関わりについてその都度検討し改善を図っている。	本人の意向よりも家族の意向が優先されている。毎月の見直しは行われないうで、職員は利用者の介護計画を確認しケアをする事が望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実施気づき等各職員が記録し担当職員はその方のカンファレンスシートやモニタリングシートを作成し課題をあげ、介護計画の見直しの必要性について全員で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院に家族対応で出かけたたり、住み慣れた宅付近をドライブしたり施設付近を散歩する事で地域の方との交流が図れている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を優先し主治医に受診している。通院困難な場合について・転医往診対応で主治医が変わる場合も有るが情報を共有し、スムーズに移行できる様支援している。受診の際受診報告書にて日々の身体的な様子を報告している。	通院困難な場合に協力医(板垣先生)に変更する時もあるが、かかりつけ医に通院する時は受診報告書を持参して、日常生活の状況等を共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時以外でもタブレットにより状況が確認出来る看護師の目線で指示を受けている。また往診時は事前に情報を看護師に伝達した上で、看護師・職員で付添いその結果については共有が図れている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供している。病棟・医療連携室とは密に連携を図り、退院時の情報を受け退院カンファレンスに参加し施設での受け入れ準備を行っている。入院が必要となった場合主治医の指示を受け受け入れ側(病院)との情報共有出来ている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時施設の状況を説明し重度化になった時の意向確認・同意書を頂いている。又、実際に重度化が進み施設での対応が難しくなった場合については他施設へスムーズに入所できる様支援している。	要介護3になった時は家族と話し合い、他の施設に移行できる様に相談にのっている。入所時には重度化した時、終末期に向けての同意書を頂いて、更に医療ニーズが必要になる前に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が定期的に救急救命講習を受けている。又自社看護師に急変時や日々のバイタルサインについての研修を受けている。その他利用者それぞれ日々注意を払わなければならない事項について指示を受けている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル避難マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行って非常時の対応に備えている。地域代表地区長さんから非常時の連絡網に電話番号を頂いている。今後協力体制について運営推進会議等で協議していきたいと考えている。	災害マニュアル、避難マニュアル等は作成されて防災の研修等に参加している。月1回災害に対して避難訓練通報、コンセント、ベッドの位置等も確認している。8月は夜間訓練、11月は総合訓練を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし不愉快な言葉や態度について絶対にあってはならない事とし随時研修や検討会を実施している。	現場において気が付いた時はその場で注意指導する。内部研修で事例を基に検討会を行っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いをなかなか表せない利用者に対し個別に傾聴したり、必ず意向確認をとりゆっくり待つ姿勢を持って自己決定が出来る様努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性や生活歴を尊重しその方の思いや希望に添った過ごしを心掛けている。その時々希望があれば出来る限り沿える様努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその時の気温や状況に応じ一緒に選んだり、希望により散髪や毛染めについても思いがかなえられる様支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を取り入れながら献立をたて買い物にでかけたり、季節の物や催事にあつたメニューと一緒に下ごしらえして貰いながら提供している。	献立は事業所で作成して、食材の一部は業者より配達、それ以外は事業所で買物を行い、事業所内で作っている野菜や近所の人達からの頂いている食材を利用し調理を行っている。利用者は下ごしらえや季節のごちそうの時に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・排泄チェックを行い、その方の好みの物や形状で水分摂取を行っている。各利用者の病状を把握し状況や病状に合わせた状態で提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。磨ききれない所は介助させて頂いている。希望者には訪問歯科診療を受けており施設全体を通してのアドバイスも受けている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状況に合わせた声がけ誘導を行っている。失敗が無い様行動の見守りを行いそれとなく声掛け誘導している。	現在はオムツ使用者は(1名・要介護5)、基本的には声掛けで支援している、常にリハパンを使用している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況について毎回申し送り確認している。日中帯で十分な水分補給やゆっくりトイレに行けるよう配慮している。状況によっては主治医に状況を伝え下剤調整や指示を受けている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回その方の希望時間や順番に配慮しながらリラックスできる様心掛けている。一対一になれる機会なので十分なコミュニケーションが取れ会話を楽しんで貰える時間でもある。	週2回を基に入浴が計画されている。個浴なので、職員と一対一で話合う事を楽しみにしている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息については個々に応じている。不安で眠れない時には一緒に過ごし話を聞くなど寄り添い安心できる様支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に変更した薬について職員間で共有している。服薬困難対応について職員間で検討し、それでも服薬出来ない状態であれば主治医に相談指示を受けている。精神薬等の変更については特に症状の変化について記録共有し、異常があれば主治医に報告相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や得意な事また今まで行ってきた仕事や趣味を活かし、役割を持って張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる花見や行事ドライブを企画している。個々の買い物が有る時は個別に職員と一緒に出掛けている。天候が良い時や利用者から希望があった時職員配置に無理が無い時には急遽出かけている。1名家族の協力により毎週日曜日自宅に外出される。	花見にはドライブで行くことを楽しみにしている。外出が好きなのか希望者が多い。近所の花屋に行つて花を育てたいという人もいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は居るが殆ど施設で預かっている。希望があれば職員が付添い買い物に付けている。ご本人が支払い出来る方はほんの一部である。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には事前に電話対応の了解を得て居り希望により自由に電話をして頂いている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をかざり季節感を味わって頂き、自然と会話が弾む環境を作っている。室温は常に確認しながら適温に保っている。又利用者の要望に対応している。	居間等、掃除が行き届いている。季節的に花は飾られていなく、もう少し環境に気を使って季節感を出すことが期待される。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビを観たり本を読んだり又、皆でテレビを観て過したり、中には趣味の編み物や塗り絵等個々に自由に過ごしている。新聞を読んでいたソファーに座りテレビを観たりと気ままに過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や馴染みの物を置き使い易い工夫をしています。家族が持参した写真を貼ったり、ポスターを貼ったりし居心地の良い空間を提供出来ている。	利用者の各室は、安心して生活ができる様に配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々変化する利用者の状況を職員間で共有し、個々に合った自立支援を踏まえた支援を心掛けている。		